

ボスニア・ヘルツェゴビナ「スポーツ教育を通じた信頼醸成」 2017年1月～2020年9月



モスタル市内で開催されたUNDOKAIでの
小学校低学年による玉入れの様子

背景/課題

1995年12月の Dayton 合意により紛争が終結したボスニア・ヘルツェゴビナは、今日でも依然として中央政府の下、ムスリム系・クロアチア系住民が中心の「ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦」、セルビア系住民が中心の「スルプスカ共和国」という2つの行政主体が存在する状態が続いている。各行政主体は独自の大統領や政府、司法、教育等の国家制度を有しており、国内統合は進んでいない。さらに教育分野においては、各民族が異なる教育カリキュラムを採用しており、国民の一体性および民族間の相互理解を阻害する大きな要因の一つとなっている。

目的

- 保健体育教科の「共通コア・カリキュラム(CCC)」の定着が図られ、社会的包摂性・多様性・公正性に配慮したスポーツ教育の意義がボスニア国内で認知されるようになる。

活動内容

- 国内のターゲット小学校で「CCC」の作成・導入を支援する。
- モスタル市スポーツ協会に対し、社会的包摂性・多様性・公正性に配慮したスポーツ事業実施能力の強化を図る。

成果

- 社会的包摂性・多様性・公正性に配慮した保健体育CCCが、ボスニア・ヘルツェゴビナ国内の関係者参加のもと作成された。
- ボスニア・ヘルツェゴビナのターゲット小学校で、保健体育CCCが試行的に導入された。
- モスタル市スポーツ協会が、社会的包摂性・多様性・公正性に配慮したイベントを実施した。